

第5回安曇野市行政改革推進委員会 会議概要

1	審議会名	第5回安曇野市行政改革推進委員会
2	日 時	平成30年10月24日(水) 午後2時00分から午後5時00分まで
3	会 場	安曇野市本庁舎3階 共用会議室305
4	出席者	伊藤会長、青木副会長、高橋委員、那須委員、望月委員、中山委員、宮崎委員、丸山委員、降旗委員
5	市側出席者	小林秘書広報課長、大竹農政課長、降幡商工労政課長、望月観光交流促進課長、堀内総務部長、関総務課長、鶴行政管理係長、飯田副主幹
6	公開・非公開の別	公開
7	傍聴人	0人 記者 2人
8	会議概要作成年月日	平成30年10月30日

協 議 事 項 等

1 会議の概要

(1) 開 会 (青木副会長)

(2) あいさつ (伊藤会長)

(3) 会議事項

① 市長との懇談

② 自主財源確保に繋がる取組みに係る状況報告

(まち・ひと・しごと創生総合戦略に掲げた具体的事業の成果)

イ 農業の振興に係る施策・・・・・・・・・・・・・・・・・・＜農政課＞

ロ 商工業の振興に係る施策・・・・・・・・・・・・・・・・・・＜商工労政課＞

ハ 観光の振興に係る施策・・・・・・・・・・・・・・・・・・＜観光交流促進課＞

③ 市ホームページの更新スケジュールについて・・・・・・＜秘書広報課＞

(4) 閉 会 (青木副会長)

2 会議概要

(1) 資料説明

(各担当課) 資料1～4説明

(2) 説明に関する意見交換

② 自主財源確保に繋がる取組みに係る状況報告

(まち・ひと・しごと創生総合戦略に掲げた具体的事業の成果)

イ 農業の振興に係る施策

○ 農業戦略は広範囲の分析を行った方が良い。都会から見れば安曇野は魅力あるブランドなので、広域な形で考えていてもらいたい。

○ 農家民宿が平成28年度から平成29年度になって、受け入れ人数が落ちている理由は何か。

⇒ 松川村ともタイアップして行っている。また受け入れる農家の事情もあると思われる。送り出す学校の都合と受け入れる農家の都合を受けて、エージェントが調整しているためだと思われる。

○ 安曇野市の姉妹都市と何故、農家民宿を推進していかないのか。

⇒ 武蔵野市、江戸川区などとは既に行っている。今後拡充していくとすれば、当然、他の姉妹都市にもお願いしていくことになる。

○ 受け入れ農家にとって農家民宿のどこにメリットを見出していくのか。

⇒ 農家民宿の趣旨で言えば、若い世代が農家で宿泊し交流することで、安曇野市へ移住するかもしれないという面、一泊二日ではあるが安曇野市の良い所を知ってもらう機会といった面などを期待している。

○ 受け入れ農家もそれなりの準備をして進めていけば、まだ受け入れ件数も伸びて行くと思うので、今後も農家民宿事業を拡大して行ってほしい。

○ 自主財源の確保は安曇野エリアのGDPをどれだけ上げていくかということである。農業に関して言えば、6次産業化など色々取り組まれていると思うが、まだこのエリアを訪問する外国人への対応という視点が抜け落ちていると思う。

視点を換え、付加価値を高めることで、農業従事者の所得の底上げに繋がり、そのことが地域の農業のGDPを上げていくことに繋がっていく。このことは自主財源の確保の一つのヒントだととらえていただきたい。

○ 農家民宿について農家の方の話を聞くと良い取り組みではあるが、これから高齢化が進んでいくと負担になっていくという話も聞いている。受け入れ農家数を増やしていくことが大きな課題だと思う。また、宿泊だけなら良いが農業体験までとなると農家の負担になるという話も聞いており、一部の体験を市民活動団体に担ってもらおうという方法もあると思うので、支援体制を築き農家の負担を軽減し、受け入れ人数を増やしていく方法の検討をお願いする。

○ 市の職員として、部署として事業にどう関わっているのか。そういった点を明らかにすることで、無駄な部分が見つかるかもしれない。今後はそういった形で説明できるようにして行ってほしい。

ロ 商工業の振興に係る施策

○ 地域にある企業はどんな特徴があるのか明確にする必要がある。

○ 製造業は今まで営業に力を入れていなかった面もあり、行政が援助することによって変わってくる面もあると思うので、ぜひ検討をお願いする。

○ 工業団地については、松本の工業団地がすべて埋まるまで10年掛かったという経過もあるので、慎重に進めていけばと思う。

○ 商工労政課としてこういった形で関わっているのか教えてほしい。

⇒ 商工労政課の主な動きとしては補助金制度の創設とその補助金の交付となる。

また、産業支援コーディネーターが年間約300社を訪問し、助成制度の案内や今後の意欲などの聞き取りを行っている。

さらに4半期ごとに100社を対象として景気動向調査を行い、調査で状況を管理し、その状況に応じた補助金制度を創設し、支援していく体制をとっている。

○ 安曇野市に関心がある企業がどれくらいあるのか。捉えていくことも大事なことである。

衰退していく企業もあるので、それらを活用していくことも大切である。企業の動きについて、どれだけ情報を持っているかが重要である。

新たに進出したいと考えている企業について、必要としている工場用地が用意できないという状況で終わっているため、新たな企業の進出に対するアンテナの高さと、税収を上げるために、新たな企業をどれだけ増やしていくという視点が一番大切であり、目標にしなければいけない。

⇒ 年間30件程度の企業から問い合わせがあるが、現在、市内の工業団地は全て満杯である。

工業団地の周辺は全て優良農地で、工場用地への転用は難しかったが、昨年、「地域未来投資促進投資法」が施行されたので、このことに基づいて、新たな企業の誘致を進めたいと考えている。

ハ 観光の振興に係る施策

○ 発信力も重要な要素である。SNSをしっかりと活用してほしい。

○ 福岡市など、安曇族のつながりも活用して行ってほしい。

- 大阪では八か国語で対応できるようにしている。外国人のトラブルに対応するリスク対策において、非常に有効なので検討してほしい。
- 観光ビジョンの中で、観光客の滞在時間を長くするために観光客にいかにかかせるかという課題があり、そのためには市民団体を活用するという大きな理念があったが、この5年間大きく動いていない実態がある。
長く滞在させるために地域ガイドを育成する必要があるが、安曇野市の観光協会では上手く活用されていないので、ビジョン策定から5年が経過し見直しの時期なので、原点に立ち返り当初の理念が少しでも生きる形にしてほしい。
- 以前、安曇野の魅力を最大限にPRできるキャッチコピーとして、「心が渴いたらまた来よう、安曇野へ」があったが、最近使われていない。外国人向けのパンフレットに良い翻訳を付けて、併記すれば、まだまだ使用に耐えうらと思う。
- 白馬エリアではグリーンシーズンで勝ち組にならないと観光が勝ち組になれないと言われており、白馬マウンテンハーバーというものを作って大変賑わっている。
安曇野市にスキー場はないが、アルプスはある。民間企業と一緒にやっていく必要があるが、セスナやヘリコプターを飛ばし、グリーンシーズンに上空から安曇野を見るといったことを検討したことはあるのか。
- ⇒ 宿泊業者が雲海の時期の早朝に長峰山山頂まで行くというプランは実施していたが、採算が合わないということで、現在は中断している。
- 農家民宿について、お昼に来て翌日のお昼に帰るのでは、滞在期間が1日しかない。農業体験と大王ワサビ農場に行くぐらいしかないので、滞在時間を増やす工夫が必要である。丸二日ぐらい滞在してもらう工夫が必要ではないか。
- ⇒ 観光ビジョンは安曇野暮らしツーリズムなので、農家民宿がベースになっていく。子供の時に安曇野の豊かな環境を体感し、大人になって子供を連れてくるという風になってほしい。
農家の方が農業体験のメニューを作るのは非常に大変なので、システム化していく必要があることは感じている。
- 農家に宿泊し、もう一日安曇野に滞在してもらうために、何かを考えていく必要がある。
- 普通のことをやっても人は来ないので、ぜひ新しいことを検討してほしい。
- 今後、取り残されないように、安曇野市の専門家を育てていくことを検討してほしい。

③ 市ホームページの更新スケジュールについて

- 現在のCMSの使い勝手は悪いのか。
- ⇒ 一例になるが、市民からお問い合わせフォームに画像などの添付ができないといった点を改善していきたいと考えている。

以上